

- ポルシェジャパン、「911カレラ」等計28車種のエアバッグコントロールユニットに不具合があるとしてリコール  
電源用コンデンサのコーティング硬化工程が不適切な為、耐久性が低いものがある。その為、コンデンサが劣化するとコントロールユニットが誤作動し、最悪の場合、エアバッグ及びシートベルトテンショナが突然作動する。または、衝突時に作動しない恐れがある。 15年8月14日～16年7月4日に輸入した1222台
- トヨタ自動車、タクシー用トールワゴンハイブリッドカー「ジャパンタクシー」のフロントドアロックに不具合があるとしてリコール  
18年3月8日～19年1月19日に生産した6188台  
運転者席および助手席ドアロックの製造工程での管理が不適切な為、異音防止用ストッパゴムがずれて組付けられたものがある。その為、ドアの開閉を繰り返すと、ゴムがドアロック機構の作動を阻害して確実に閉じることができなくなり、最悪の場合、走行中にドアが開く恐れがある。
- トヨタ自動車、「アルファード」等計11車種の後部座席シートベルトに不具合があるとしてリコール 19年8月19日～同年9月12日に生産した7790台  
組付設備の調整が不適切な為、ベルトリトラクタロック機構部のスプリングが屈曲して組付けられたものがある。その為、スプリングが構成部品と干渉し、シートベルトが素早く引き出された際にロックしない恐れがある。
- トヨタ自動車、「プリウス」のコンビネーションメーターに不具合があるとしてリコール 19年7月9日～同年7月31日に生産した7087台  
メータ基板を構成する素子の生産設備の管理が不適切な為、素子内部に亀裂が生じているものがある。その為、使用過程で素子内部の回路がショートし、速度計や走行距離計等が表示されなくなる恐れがある。
- ホンダ、電動パーキングブレーキの不具合で生産を停止している「N-WGN」「N-WGNカスタム」にリコール  
電動パーキングブレーキアクチュエータについては、モータ配線接続部の圧着端子の加締めが不十分、またはモータのコンミテータおよびブラシの製造が不適切な為、走行振動でモータ内の接触抵抗が一時的に増加するとモータ回路断線検知信号が乱れてVSA(車両挙動安定化制御システム)が異常を検知し、故障と判定することがある。その為、警告灯、警告表示が点灯して、駐車ブレーキが作動・解除できなくなる恐れがある。ドラムブレーキシューの拡張、収縮を行うためのスプリングパッケージについては、作動ストローク設定が不適切な為、パーキングブレーキ解除時にスプリングパッケージがシュースプレッドボディに干渉し、モータ負荷が高くなることある。その為、モータの電流値が閾値を超えてVSAが異常を検知し、警告灯、警告表示が点灯して駐車ブレーキが作動しなくなる恐れがある。  
19年7月4日～同年8月30日に生産した9437台
- フォルクスワーゲングループジャパン、「シャラン」等計4車種のエアバッグコントロールユニットに不具合があるとしてリコール  
15年6月20日～16年2月9日に輸入した2011台  
電源用コンデンサのコーティング硬化工程が不適切な為、電源用コンデンサの耐久性が低いものがある。その為、コンデンサが劣化するとコントロールユニットが誤作動し、最悪の場合、エアバッグおよびシートベルトテンショナが突然作動する、または衝突時に作動しない恐れがある。
- マツダ、「マツダ3」「CX-30」のエンジン制御コンピュータに不具合があるとしてリコール 19年3月5日～同年11月8日に生産した1万7367台  
燃料噴射制御プログラムが不適切な為、燃焼室に大量の燃料噴射ガスが流れ込んだ際に、インジェクタによる燃料噴射量を正しく制御できないことがある。その為、燃焼に必要な燃料噴射量が不足し、最悪の場合、低車速時にエンストする恐れがある。又、アイドリングストップ後の再始動制御プログラムが不適切な為、アイドリングストップを制御するためのエンジン停止判定処理が遅れた場合、アイドリングストップ後にエンジンが再始動しなくなる恐れがある。